



Tanabe East Rotary Club in 2016-17

2016-17年度RI会長:ジョンF ジャーム
 第2640地区ガバナー: 福井 隆一郎
 田辺東ロータリークラブ

創立: 昭和49年5月15日

会長: 山本 亘
 幹事: 谷本 司
 会報: 岡本 博



例会場/事務所: 田辺市下屋敷町81-10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
<http://tanabe-east-rc.com/>
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会: 毎週水曜日 12:30~
 ビジターフィー ¥2,000

○会長報告 会長 山本 亘



■5月18日(木) 高山寺に於いて、南方熊楠翁生誕150周年記念事業実行委員会・南方熊楠顕彰会主催の「偲ぶ会」が執り行われました。記念事業実行委員として、会長 山本が出席して参りました。

■5月18日(木) ホテル・アゴラ リージェンシー堺に於いて、「ガバナー補佐・地区幹事 合同会議」が開催されました。ガバナー補佐として、坂本正人君に出席して頂きました。ご苦労様です。

■本日の例会終了後、臨時理事会を開催致します。理事・役員の方は出席頂きますようお願い致します。

■本日のお客様は、NPO法人 和歌山子どもの虐待防止協会 副会長 山本 高正 (やまもと たかまさ) 様と、事務局長 柳川 敏彦 (やながわ としひこ) 様 (和歌山県立医科大学 保健看護学部保健看護学科 教授) をお迎えしております。後ほどご講演宜しくお願い致します。

○幹事報告 幹事 谷本 司



■メイクアップ

◎5月18日(木) 南方熊楠翁生誕150周年記念事業「偲ぶ会」
 山本亘

◎5月18日(木) ガバナー補佐・地区幹事 合同会議
 坂本正人君

■回覧

◎公益財団法人 和歌山県水上安全協会より
 「平成29年度賛助会員会費納入のお願いについて」
 「公益財団法人 和歌山県水上安全協会 リーフレット」

◎「シーカ145号」

◎ガバナー事務所より

「青少年交換 長期受入学生への終了証書授与式およびホストファミリーと受入学校への感謝状授与式ならびに長期派遣留学生の歓送会」

■例会日時変更

◎高野山RC

6月2日(金) → 6月2日(金)
 <「ロータリー100年の森林」にて清掃作業>

6月23日(金) → 6月22日(木)
 場所: 堺方面 <親睦例会>

◎和歌山南RC

6月23日(金) → 6月23日(金) 18:30~
 場所: ダイワロイネットホテル和歌山
 <2016-17年度最終夜間例会>

6月30日(金) → 休会

○2017~18年度、地区研修・協議会 5/14

地区研修会に行ってきました。
 69クラブ中68クラブの参加となり、654名の方が出席されました。
 次年度への期待もあり盛況に開催されました。



○本日の唱歌

「バラが咲いた」

唱歌委員 丸山 勇人君
作 詞 : 浜口 庫之助
作 曲 : 浜口 庫之助



○ゲスト・ピジター

NPO法人
和歌山子ども虐待防止協会
副会長 山本 高正様



事務局長
柳川 敏彦様



○出席報告

会員数 49名 義務免除 2名 本日の欠席者 16名
本日出席率 65.96% 5月10日の修正出席率 89.36%

○委員会報告

親睦委員会 愛須勝章

トレッキング参加ありがとうございました。

反省～間違い～

超ハードスベックコース（モンキークライム、絶壁付き）でした。

♪～今はまだ～法師山（やま）の～頂きを語らず～♪

By TAKURO

アイムソーリ～ヒゲソーリ～

社会奉仕委員会 吉本 正美

6月10日(土) 田辺湾クリーン作戦があります。皆さん、ご参加ください。



○にこにこ報告

(敬称略)

◇NPO法人 和歌山子ども虐待防止協会、副会長
山本高正様、事務局長 柳川敏彦様をお迎えして。
畑地誠・片井貢・木村壽一・丸山博之・中嶋伸和・
那須壽子・佐田一三・阪本邦夫・竹村英一・
竹中悟・谷本司・谷中順次郎・上原俊宏・
早稲田清司・山本亘・吉田和枝・吉本正美

◇法師山たどり着かず。
二度と登りたくない。
橋本 隆



◇二度と行きたくない。
畔田 実



◇トレッキング参加ありがとうございました。
反省～間違い～ 超ハードスベックコース
（モンキークライム、絶壁付き）でした。
♪～今はまだ～法師山（やま）の～
頂きを語らず～♪ By TAKURO
アイムソーリ～ヒゲソーリ～
愛須勝章



◇長女の店の名前が決まりました。
「カリフォルニアクラブ」
東心斎橋の真ん中で75坪、
100名が入れます。
6月中頃、オープンです。
丸山勇人



◇奥様誕生日
誕生日おめでとう！
今少し元気で、仲良くして
下さい。
小山 實



◇お花いただきます。
緒方雅男



NPO法人 和歌山子ども虐待防止協会 事務局長

(和歌山県立医科大学保健看護学部教授)

柳川敏彦



全国児童相談所（274か所）の児童虐待対応件数は平成27年度に103,260件と初めて10万件を超えました。和歌山県では過去10年間で2倍の増加を示しています。全国では平成25年度から心理的虐待が最も多く、そのあと身体的虐待、ネグレクト、性的虐待と続いています。

心理的虐待では、DV(ドメスティック・バイオレンス)による配偶者への暴力を目撃した子どもの心の傷が目目され、警察からの通告がもっとも多くなっています。また、「いわゆる泣き声通告」という近隣からの通告も多く寄せられ民間の方々の協力も必要です。長期の虐待は、心に大きな傷を残しますが、成人後の脳の検査では、「脳の傷」につながることも分かってきました。子ども虐待への対応は、子どもへ重度の心身の傷に至る前の家族への手当、支援が必要です。NPO法人和歌山子どもの虐待防止協会は、「子育ては社会です」を理念に3つの柱で活動をしています。

①子育て支援（子育てプログラムの実施）、②児童への社会的養護支援（里親、児童養護施設支援）、③子どもの貧困対策（学習支援、子ども食堂）です。地域における活動が最も重要で、社会的な支援が求められています。

28.11/26 紀伊民報

(15) (月ぎめ購読料1,800円うち消費税133円)一部売り(税込み)80円 <第3種郵便物認可>

法医学的に虐待を判断

県立医大が児相に協力

児童が虐待を受けたかどうか判断が難しいケースについて、県立医科大(和歌山市)が児童相談所(児相)に協力し、法医学的に診断する取り組みをしている。昨年8月から今年10月までに8児童の相談があり、いずれも虐待の疑い。児相の積極的な介入や保護につなげたという。法医学博士の近藤和裕教授は「虐待防止につなげ、不幸な子どもを減らしたい」と話している。

傾向にある。(10年では、2007、08、09年度は年間400件だったが、10年度には640件となり、それ以降は5年連続で過去最多を更新。新児相によると本年度も7月末までで308件(暫定値)の相談が寄せられ、過去最多の14年度1年間の632件を上回るペースになっている。

しかし、虐待が疑われても保護者が事故を主張すれば、児相がどこまで介入すべきかの判断が難しいケースがある。児相は原則、小児科から保護者の話を聞いていないかなど意見を聞いて、その上で必要に応じて整形外科チームをつくり、虐待の可能性を診断する仕組みが理想

からはこれに加え、傷が重篤な場合や判断が難しいケースなどについて法医学的な意見も取り入れることにした。県立医大相談所は「小児科では判断が難しい場合でも、法医学の意見(専門)とで、参考にする指標を数え、的確な対応につなげたい」という。

近藤教授は「傷もあざの判断は、小児科医師でも法医学的な専門知識がないと難しい。法医学的な立場で責任を担って意見を出すことで、次の対応につながる。被虐待者の抑止になる」と話す。

将来的には「小児科医師とチームをつくり、虐待の可能性を診断する仕組みが理想」と話している。

という。一方で、法医学は遭い医師にも浸透していないとい

体の司法解剖というイメージが強い「認知度を上げ、小児科から虐待防止に積極的にも取り組んでいる」とは小児科「よっちゃん」として話している。

虐待死44人、1歳未満6割

実母が「加害者」も6割超

9/18 紀伊民報

2014年度に虐待を受け死亡した18歳未満の子どもが、前年度に比べて8人増の44人(無理心中を除く)に上ったことが16日、厚生労働省専門委員会のまとめで分かった。1歳未満が過去最高となる6割超。加害者が実母だったのも6割超だった。「望まない妊娠」など母親が抱える問題が自立も、虐待件数が増加の一途をたどる中、最悪の事態を防ぐための体制整備が急がれる。

虐待死した44人に対する加害者は実母が28人で、実父3人、実母と実父の両方だったのは2人。他は実母の交際相手や養父などだった。動機は「子どもの存在の拒否(否定)」「保護を怠った」「しつけの問題」など、妊娠初期の問題として、「望まない妊娠」だった実母が24人、「妊娠継続の未受診」が18人だった。

一方、死14人の事案に関わっていた児童相談所職員は、それぞれ1年間に平均10.4件の事案を担当。過重な負担があったため、過重な負担が14年度に児相などの施設に入所経験がある子どもで虐待死したのは14人と確認。うち9人は家庭に戻って半年未満に死亡しており、「関係機関が援助方針などに「身体的虐待」(24人、54%)と「ネグレクト(重要)」としている。

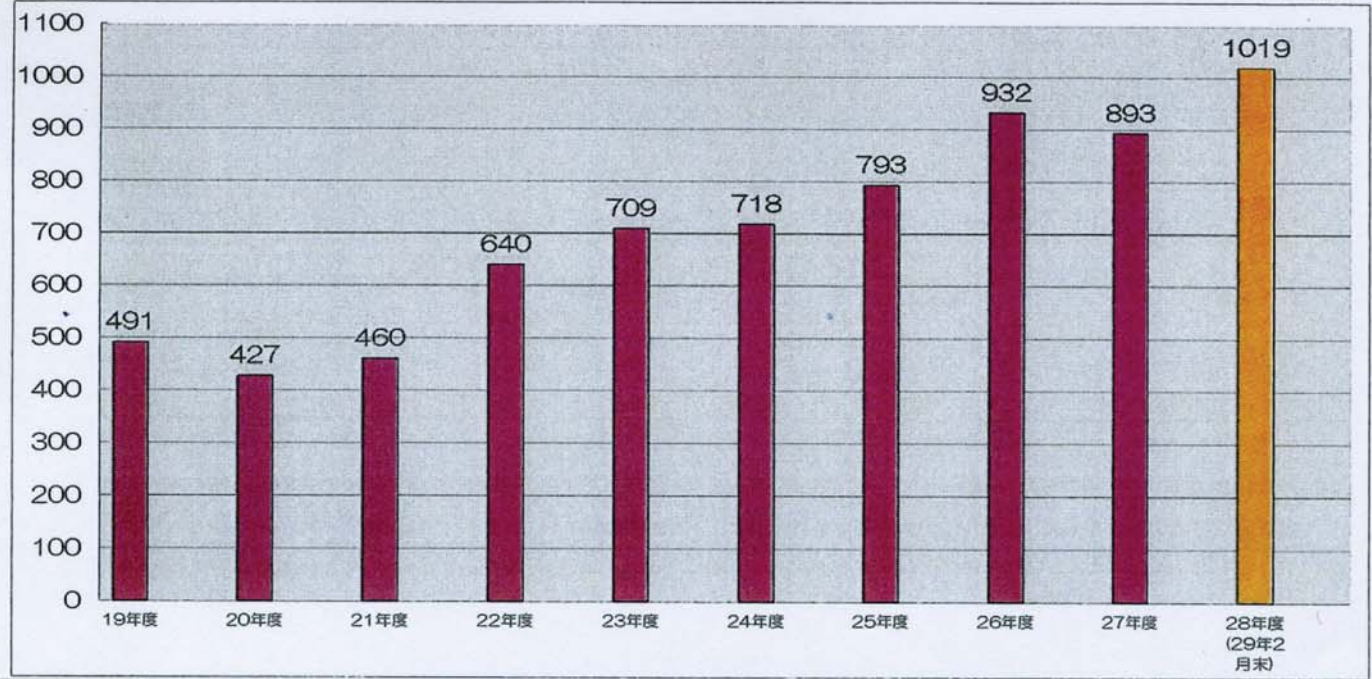
厚労省によると、昨年3月までの1年間に虐待で死亡した子どもは男20人、女22人、不明2人の計44人。1歳未満が27人(61.4%)と最多で、3歳が7人(15.9%)、1歳が4人(9.1%)だった。不明の1人を除き、最も年齢が高いのは14歳(1人)。「身体的虐待」(24人、54%)と「ネグレクト(重要)」としている。

和歌山県における児童虐待の現状

《児童相談所における児童虐待相談受付件数》 H29.3.1時点

図1 和歌山県における児童虐待相談件数の推移

※速報値



	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度 (29年2月末)
和歌山県受付件数	491	427	460	640	709	718	793	932	893	1019
全国対応件数	40,639	42,664	44,211	56,384	59,919	66,701	73,802	88,931	103,260	

26年度	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	ネグレクト	計
0～3歳未満	26	1	104	61	192
3～学齢前	72	2	88	53	215
小学生	91	0	136	96	323
中学生	33	2	52	37	124
高校生・その他	28	4	25	21	78
計	250	9	405	268	932

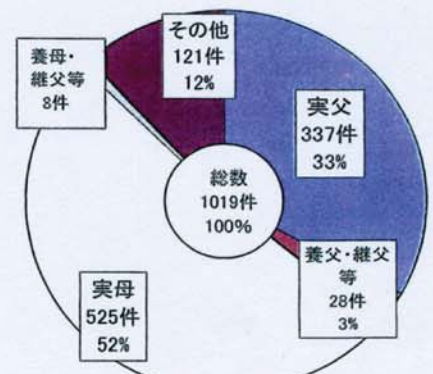
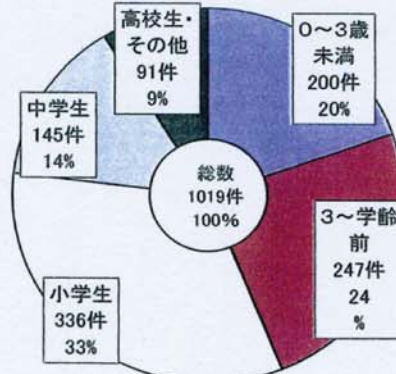
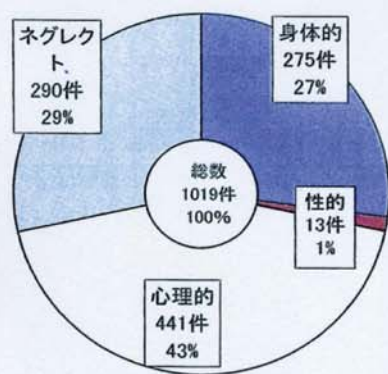
27年度	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	ネグレクト	計
0～3歳未満	48	2	78	74	202
3～学齢前	56	4	97	56	213
小学生	110	4	109	85	308
中学生	30	3	36	30	99
高校生・その他	25	4	27	15	71
計	269	17	347	260	893

28年度 (29年2月末)	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	ネグレクト	計
0～3歳未満	48	0	94	58	200
3～学齢前	61	0	128	58	247
小学生	96	3	134	103	336
中学生	43	4	50	48	145
高校生・その他	27	6	35	23	91
計	275	13	441	290	1019

図2 平成28年度 児童虐待相談種別構成割合

図3 平成28年度 被虐待児の年齢構成割合

図4 平成28年度 主な虐待者の割合



平成26年度、27年度、28年度相談経路

年度	都道府県				市 町 村			児童福祉施設・指定医療機関			警察等	児童家庭支援センター	家庭裁判所	保健所及び医療機関		学校等			里親	児童委員(通告の仲)	家族				親戚	近隣・知人	児童本人	その他	計			
	児童相談所	福祉事務所	保健センター	その他	福祉事務所	児童委員	保健センター	その他	保育所	児童福祉施設				指定医療機関	保健所	医療機関	幼稚園	学校			教育委員会等	虐待者本人	虐待者以外	その他								
26年度	34	20	5	43	195	0	0	49	8	8	0	111	15	0	8	53	0	108	5	0	4	1	19	0	16	20	15	23	132	14	26	932
27年度	48	21	8	21	76	0	25	114	0	8	1	172	5	1	0	45	3	84	11	6	1	2	16	0	13	18	7	26	98	3	60	893
28年度 (29年2月末)	53	7	0	22	146	0	2	65	3	10	2	254	1	0	2	42	0	118	8	1	5	2	28	0	18	22	12	20	146	11	19	1019

四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか